

「第7次福島市総合計画（基本構想・基本計画）素案」 策定のポイント

《計画の策定にあたって》

●ポイント1：皆さまの想いを形にしました。

皆さまの想いを計画に反映させるため、市民3,000人を対象とした「アンケート調査」を実施し、学生から先輩世代まで約100人のメンバーで構成される「ワークショップ」、各分野の専門家で構成される「有識者懇談会」を開催して、幅広い意見を伺いました。



【ワークショップの様子】

●ポイント2：データに基づく検証を行いました。

本計画では、「データ行政」の観点を重視して、客観的なデータに基づき、現状や成果を可視化し、根拠ある政策判断と効果的な施策の推進を目指しています。

そこで、200を超える統計データを取りまとめて本年3月に策定した「福島市データブック」を積極的に活用しながら、分野ごとに現状・課題の分析を行い、施策の方向性を示しています。



【福島市データブック】

●ポイント3：シンプルにまとめて分かりやすい構成にしました。

学生を含め多くの皆さまに計画を手に取り読んでもらえるよう、要点を整理した上で、写真などを随所に配置しながら、視覚的に分かりやすく構成を工夫しました。
※今後、冊子化を進める中で、さらにイラストなどを追加して磨き上げます。



《計画の内容について》

●ポイント1：新たに「次世代文教都市」の考えを盛り込みました。

共創で目指すまちの未来像として、
「花めく 次世代文教都市 心くしま」
を掲げ、ともに考え実践することで、
誰もが自分らしく輝き、次世代へ
誇れる福島市を目指します。

※詳細は素案11～14ページ参照

次世代文教都市とは？

全ての子どもたちが笑顔で成長できる環境を基盤に、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らし、学び、文化や教育に親しみながら自らの可能性に挑戦できる社会を実現するまちです。

●ポイント2：全施策の共通基盤となる「土台」を設定しました。

本市が目指す未来を実現するため、すべての施策を支え、分野横断的に機能する共通の基盤として「データ行政・成功体験づくり・構造変化への対応」を計画の「土台」としました。

目指す未来を実現するために、この「土台」のもと、政策の方向性や分野ごとに取り組むプロジェクトを体系的に整理しています（下図参照）

※詳細は素案15～18ページ参照

